

新聞はおもしろい!

新聞記事を使った認知症予防の取り組みが、瑞穂市重里の巣南リハビリセンター内のトータルケアセンター巣南で行われている。社会への関心を持ってもらうとともに、昔の経験を呼び起こし、認知機能の向上につなげる効果を期待しているという。

同センターは、脳機能を活性化する「脳活性化ダイケア」を週2回、3時間ほど提供しており、新聞記事を教材にした取り組みはその一環。

フロアのテーブルに80〜90代の6、7人の利用者が集まると、作業療法士の坪内貴志さん(44)が

瑞穂市のリハビリ施設で活用

読み上げ、認知症予防に

新聞を広げ紙面を紹介。日付を全員で読み上げた後、坪内さんが「ラグビーW杯、何年おきに開くか知ってる?」「祝賀パレードが台風被害で延期。岐阜も水害に見舞われたけど、覚えてる?」など、数字や岐阜の歴史を確認した。利用者は「4年前より盛り上がった」「昭和51年の安八水害ね」と語り合い、指でなぞりながら見出しを声に出して読む姿も見られた。

坪内さんは「紙面に幅広い話題が並ぶため、利用者同士の会話が続きやすい。スタッフが利用者の

認知能力を知り、介護サービスに生かすこともできる」と取り組みの成果を実感。3年以上続けて参加する80代の女性は「他の人の思い出話や意見を聞けて楽しい。ラグビーの『8強』など新聞で知る言葉も多い」と笑顔で話した。



坪内貴志さん(右手前から2人目)が紹介する新聞記事を読みながら、思い出話に花を咲かせる利用者＝瑞穂市重里、巣南リハビリセンター

(村瀬真末)